

CSR report 2017



エイベックスが大切にしていること

めまぐるしく変化する社会の中で、
私たちは総合エンタテインメント企業として何ができるのだろうか、
常に考え続けてきました。

寄付やボランティアといった活動は、
エイベックス・グループとしても日常的に行っています。
でも、それは企業として当たり前のことだと思っています。

私たちの本業は、人々に感動を与えること。
共感を起し、希望を与え、生きる喜び、そして未来への夢を与えること。
誤解を恐れずに言えば、事業そのものがCSRなのかもしれません。

そのためには、エンタテインメントを創り出す人々の環境を整えること。
つまり、社員一人ひとりがいきいきと働けるエイベックスであり続けること。
それもCSRだといえるはずはです。

私たちが持つすべてのノウハウを生かし、人の感情を揺さぶる、
エイベックスのエンタテインメントにしかできないCSRを追求していきます。

いつの時代も、一人ひとりに寄り添う、
エンタテインメントを。

エイベックス・グループの社会的責任

エイベックス・グループでは、
国際規格ISO26000の原則に従い、
事業を通して社会的責任を果たすため「3つの軸」を規定し、
さまざまなCSR活動を展開しています。

エイベックスのCSR “3つの軸”

地球の未来に
向けて

環境

for environment

社外に向けて

公正な事業慣行
消費者課題
コミュニティへの参画および
コミュニティの発展

for society

従業員に向けて

人権
労働慣行
組織統治

for staff

エイベックスによる復興支援活動

プロダンサーの派遣で、被災地の子どもたちを笑顔に



2016年度も、被災地の小・中学校にプロダンサーを派遣

当社グループでは「エンタテインメントを通じて感動や夢を届けたい」という想いのもと、東日本大震災の被災地への復興支援活動を続けています。原発事故の影響で、子どもたちの運動不足が問題になっていた福島県南相馬市の小・中学校に、2014年度よりプロダンサーの派遣を開始。3年目となる2016年度は「教える」だけでなく「一緒に作る」をテーマに掲げて、16校にJSDA(日本ストリートダンス協会)公認のプロダンサーを派遣しました。運動不足の解消はもちろん、エンタテインメントへの理解

を深めてもらい、普通の生活に充実感を持ってもらうことを目標に取り組んでいます。この活動は、今後も継続的に実施し、より多くの小・中学生に元気を届けます。

2016年度ダンサー派遣実績(計16校)	
10月	原町第一・石神中学校
6月	大蓬・小高・福浦・金房・鳩原小学校
12月	太田・石神第一小学校
7月	原町第一・原町第三小学校
1月	高平小学校・原町第三中学校
8月	原町第一・鹿島中学校
2月	高平・小高・福浦・金房・鳩原・石神第二小学校
9月	原町第二小学校・原町第一中学校

生徒・教職員が一丸となったダンスレッスンへ

南相馬市立原町第一中学校 体育科 菊地 泰輔 様

ダンスレッスンは「伝統行事」のひとつに

ダンサー派遣によるダンスレッスンは、2016年に3年目を迎え、いまでは当校の伝統行事のひとつになっています。生徒だけでなく、保護者からの評価も高く「今年はどんなレッスンをやるんだろう」と期待の声が上がり、教職員も新しい振り付けを楽しみにしていました。特に2016年は、3か月連続のレッスンの後、文化祭で全校生徒約300人がその成果を披露したということもあり、大いに盛り上がりました。

サプライズ登場でボルテージは最高潮に

KO-TANGさん、ma-yaさん、RYOTAROさんがレッスンを教えてくれますが、レッスンがないときは、KO-TANGさんにメールで相談して自主的に練習をしたり、自分たちで振り付けを考えたり、意欲的に取り組んでいる様子が見られました。文化祭当日は、KO-TANGさんがこっそり生徒たちのダンス発表を見学し、閉会式では、KO-TANGさんがサプライズ登場し、マイケルジャクソンの踊りを披露。感動のあまり涙を流す生徒もいたほどです。

踊ることの楽しさをもっと広めたい

現在、中学校の保健体育ではダンスが必修となっていますが、「体を動かすのが好きになった」という声や、「もっとうまくなりたい」という声がたくさん上がるようになりました。プロの

ダンサーに丁寧に教えてもらったことで、生徒たちのダンスに対する興味や関心は、以前よりもずいぶん高まったように感じます。プロのダンスを生で観ることは生徒たちの刺激になっており、これからもエイベックスの方々と協力し、レッスンやダンス発表を通して、体を動かすことの大切さや自己表現の楽しさを伝えたいと思っています。



「ふくしま元気UPプロジェクト」でCDとDVDを制作

2015年3月より、福島民友新聞社が開催する「ふくしま元気UPプロジェクト」に協力しています。2016年度は、保育園・幼稚園教諭を対象にしたセミナーを実施。福島の子どものために、たにぞう(谷口國博)さんが作詞を担当し、SAMさんが振り付けを行なった新曲・新ダンス「空にはいつもほら太陽!」のCD/DVDを配布。小学校低学年までの子どもたちと保護者を対象にしたダンスイベントの実践指導も行いました。



「空にはいつもほら太陽!」CD

ふくしま元気UP
プロジェクト2016



ダンスイベント

エイベックスによる障がい者スポーツ支援活動

チャレンジド・アスリートをサポート



所属選手・チーム*	高田 裕士	佐藤 圭一	上地 結衣	木山 由加	正木 健人	三枝 浩基	高桑 早生
	半谷 静香	金持 義和	船水 梓緒里	綱本 麻里	大谷 桃子	峰村 邦彦	NTT SATO JPN

※2017年5月末現在

単一企業最多のリオパラリンピック選手輩出で、文科省から表彰

当社グループでは、障がいを持ちながらもトップアスリートとして活躍する選手を積極的に雇用、支援しています。車いすテニスをはじめ、車椅子バスケットボール、車いす陸上、柔道、水泳、スキーを含む計9つの競技で12名の選手と1つのチームがエイベックス・チャレンジド・アスリートとして活躍しています。2016年に開催された「リオパラリンピック競技大会」では、4競技、6選手を輩出し、文部科学省より「リオパラリンピック競技大会」に出場した多数の選手を支援した団体として、はじめて「文部科学大臣特別表彰」を受章しました。当社グループでは、これからも皆さまに夢と感動をお届けできるよう、さまざまな活動を推進していきます。



リオパラリンピック 主な成績結果

選手	競技	成績		
正木 健人 選手	柔道	100kg超級 「銅メダル」		
上地 結衣 選手	車いすテニス	シングルス 「銅メダル」	ダブルス 「4位入賞」	
木山 由加 選手	車いす陸上	100m 「4位入賞」	400m 「4位入賞」	
半谷 静香 選手	柔道	48kg級 「5位入賞」		
高桑 早生 選手	陸上	100m 「8位入賞」	200m 「7位入賞」	走幅跳 「6位入賞」
佐藤 圭一 選手	パラトライアスロン	PT4 「11位」		

障がい者スポーツの価値を高めたい

パラ陸上 高桑 早生



埼玉県出身、現在25歳。
中学生の時に骨肉腫で左下腿を切断。高校で本格的に陸上を始めると、才能を一気に開花させ20歳でロンドンパラリンピックに出場。
2015年のIPC陸上競技世界選手権大会では走幅跳で銅メダルを獲得。リオパラリンピックでは100m、200mで自身の記録を更新し、ともにアジア記録を更新した。

選手であり、社員であるからできること

リオパラリンピックで、走幅跳、100m、200mの全出場種目に入賞できたことは、大きな自信につながりました。一方で、いくつかの課題も明確になったので、世界選手権や東京パラリンピックに繋がるように活かしていきたいと思います。私は競技選手ですが、エイベックスの社員でもあり、所属している他のアスリートやこの取り組みの宣伝・PR業務を担当しています。

「障がい者スポーツ啓発」への取り組み

2015年度からイオンモールの特設会場で開催している障がい者スポーツイベント。2016年度は、トップアスリートによる車椅子バスケットボールデモンストレーションのほか、車椅子バスケットボール体験会&トップ選手との撮影会を実施しました。体験会には、家族連れでショッピングを楽しんでいた方が飛び入り参加するなど、たくさんの方に障がい者スポーツを身近に感じていただくことができました。今後もさらに多くの人に興味を持ってもらえるよう、さまざまな啓発活動に取り組んでいきます。



1日の中で仕事モードと競技モードを切り替える必要があり、大変なところもありますが、競技選手として経験したことや感じたことを会社にフィードバックできるという良さもあります。

新しいアイデアで、障がい者スポーツに光を当てる

障がい者スポーツは、注目される機会が増え、社会にようやく馴染んできた印象がありますが、一方で、大会運営については扱い方がわからないという声も聞きます。現場の声を集め、競技者と社会の架け橋となって大会運営や競技のあり方についても考えていきたいです。特に、エイベックスは、音楽や映像、ライブ制作などの独自のコンテンツプラットフォームがあり、それらとコラボレーションすることで、まったく新しい形で情報を発信できるのではないかと考えています。実際、社名が入ったユニフォームを着て競技場を回っていると、「エイベックスは何かやってくれるんじゃないか」と期待されていることを実感します。私が中学生の時に雇った小児がんは、10代に多いといわれる病気です。競技をしている姿や、さまざまなメディアを通して、同じ境遇の方に感動や夢を与えられるよう、今後も新しいことに積極的にチャレンジしたいと思っています。

2016年度 主な活動と選手の活躍

2016.6	金持義和が文部科学省「スポーツ功労者顕彰」受章 木山由加・高桑早生・峰村史世コーチが 文部科学省「国際競技大会優秀者等表彰」受章
2016.8	第1回ポッチャ甲子園に協賛
2016.9	正木健人・上地結衣・木山由加・高桑早生・半谷静香・佐藤圭一が リオ2016/パラリンピック競技大会日本代表選手として出場
2016.10	(一社)障がい者サッカー連盟(JIFF)のオフィシャルパートナー就任
2016.12	上地結衣がスポーツ報知「プロスポーツ特別賞」受賞
2017.1	上地結衣が全豪オープンシングルス初優勝
2017.3	リオ2016/パラリンピックに係る「文部科学大臣特別表彰」を受章

エイベックスが啓発活動をサポート 知って、肝炎プロジェクト



「知って、肝炎プロジェクト」とは

「知って、肝炎プロジェクト」は、肝炎に関する正しい知識や肝炎ウイルス検査の必要性をわかりやすく伝え、早期発見・早期治療を目指す啓発活動です。肝炎は、肝硬変や肝がんという重い病気に進行する恐れがあるにもかかわらず、認知度が低いため、診断や治療が進んでいないというのが現状です。世界保健機関(WHO)は、2010年に世界レベルでのウイルス性肝炎のまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消や感染防止の推進を目的とし、7月28日を「World Hepatitis Days(世界肝炎デー)」に制定。日本でも7月28日を「日本肝炎デー」と定め、厚生労働省 肝炎総合対策推進国民運動特別

参与の杉良太郎氏をはじめ、多くの大使・スペシャルサポーターとともに啓発活動を推進しています。当社グループでは、幅広い年代で歌えるテーマソング「笑顔の明日」やミュージックビデオの制作のほか、PRイベントの開催や表敬訪問、スペシャルサポーターによる広報活動などでプロジェクトをサポートします。

知って、肝炎

知って、肝炎
プロジェクト
ロゴマーク

2016年度 主な活動実績

- | | |
|--|--|
| 2016.4.28 小室哲哉氏が肝炎対策大使に就任 | 2016.9.4 AKB48(大家志津香氏・木崎ゆりあ氏・矢吹奈子氏)
サガン鳥栖 豊田陽平氏
佐賀県 弘学館中学校・高等学校文化祭訪問 |
| 2016.7.26 「知って、肝炎プロジェクトミーティング2016」開催
テーマソング『笑顔の明日』を発表 | 2016.9.17 杉良太郎特別参与、w-inds.氏
サッカーJ1サガン鳥栖-サンフレッチェ広島戦訪問 |
| 2016.7.31 佐賀市民講座にはなわ氏、スペシャルサポーター清水宏保氏 登壇 | 2017.2.22 「知って、肝炎プロジェクト」2016年度パートナー企業団体会議実施 |
| 2016.7.29~8.4 『a-nation island』に「知って、肝炎プロジェクト」ブースを出展 | |
| 2016.8.27~28 『a-nation stadium』に「知って、肝炎プロジェクト」ブースを出展 | |

幅広い世代に「肝炎」を知ってもらうきっかけに

佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター 特任教授 医学博士 江口 有一郎 様

産官学が連携した啓発プロジェクト

このプロジェクトは、肝炎とはなにか、どのように感染するのか、どんな人に危険があるのか、そして、どんな予防法や治療法があるのかということの、周知・理解を図る活動です。平成24年から肝がん死亡率16年連続全国ワースト1の県である佐賀県において佐賀大学と協力して、さまざまな啓発活動を実施。平成27年にAKB48の高橋みなみさんが、佐賀県知事と佐賀大学学長に表敬訪問したのを皮切りに、その後エイベックスとさまざまな取り組みを行ってきました。

スタジアムの観客1万人に啓発活動を実施

平成28年9月には、杉良太郎さんとスペシャルサポーターのw-inds.さんがサッカーJ1サガン鳥栖とサンフレッチェ広島戦を訪れ、試合前のセレモニーで啓発活動を実施しました。時折強い雨が降る中、集まった1万人の観客から大きな拍手と歓声が上がり、スタジアムは熱気に包まれました。数年にわたる普及活動により、肝炎ウイルス検査の受検希望者が増え、幅広い層に肝炎を知ってもらうきっかけとなったことに、とても感謝しています。

気づきから、理解、行動へつなげたい

同9月、地元中学・高校の学園祭に、AKB48の皆さんとサガン鳥栖の豊田選手のサプライズ訪問があり、高校生に肝炎の現状について理解を促すことができました。イベントに参加した

生徒が理解を深めるとともに、自身が「スペシャルサポーター」となって、親御さんや周囲の人たちに声がけをしてもらい、肝炎への正しい理解を広め、肝炎ウイルス検査の受検などにつなげていきたいと思っています。

肝炎に興味を持つ人の輪を広げたい

肝炎は、健康に大きな影響を与えるにもかかわらず、まだまだ認知度が低く、診断や治療が進んでいない分野です。早期発見・早期治療が重要なので、プロジェクトのロゴやメッセージに加え、著名な方の力を借りることで、肝炎に関心のなかった市民の方々に「かんえん」という言葉だけでも知ってもらいたいと思っています。イベント参加者がスペシャルサポーターとして周囲に広めていく企画や、さまざまな企業とコラボしたイベント、そして、全国に約70カ所ある肝疾患診療連携拠点病院が協働で行う啓発活動など、肝炎に興味や関心を持つ人の輪を広げるプロジェクトを活発にしていきたいと考えています。



佐賀でのイベントの様子

小室哲哉氏によるテーマソング制作

肝炎対策大使に就任した小室哲哉氏が、「少しでも多くの人に肝炎について理解してもらいたい」という思いから、テーマソングの制作プロジェクトがはじまりました。制作期間はおよそ2ヶ月。総勢26組のスペシャルサポーター全員が、ミュージックビデオの制作に参加。作詞、作曲、編曲、編集のすべてを小室氏が監修したテーマソング「笑顔の明日(えがおのあした)」は、スペシャルサポーターが一堂に会する「知って、肝炎プロジェクトミーティング2016」で初披露しました。

「a-nation 2016」で肝炎の啓発ブースを設置

日本最大級の野外音楽イベント「a-nation island fes. 2016 powered by dTV」にブースを出展。スペシャルサポーターのメッセージやサインを展示し、肝炎の知識や検査の必要性をアピールしました。



知って、肝炎啓発ブース



a-nation来場者への啓発

社内での環境への取り組み

社内におけるエコ活動

当社グループでは社員が働きやすい快適なオフィス空間を実現すると同時に、地球環境にやさしい会社であり続けるため、さまざまなエコ活動を推進。社内朝礼放送や社内報での啓蒙活動をはじめ、社員一人ひとりの小さな取り組みから会社全体での取り組みまで継続的に実施しています。



社内朝礼放送

保護(まもる)くんの導入

社内の機密文書の処理に専用のプロテクションツール「保護(まもる)くん」を導入。機密保持とリサイクルの両立を実現し、2016年度は398本分の森林伐採抑制に貢献しました。



機密書類等を回収



「保護(まもる)くん」で保管



厳重なセキュリティ管理のもと輸送、処理施設にて破碎。その後、紙の繊維を活かすことで、再生紙に生まれ変わります。

エコバッグの導入

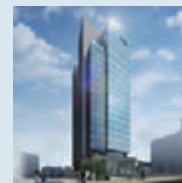
「備品を大切に使う意識を持ってほしい」という観点から、社内で書類などを運ぶ際に使用される袋に「エコバッグ」を導入しました。



オリジナルエコバッグ

環境配慮型の新社屋

現在建設中の新社屋は、省エネに配慮した設計になっているほか、工事段階においてもゼロエミッション、分別100%を目標に、環境・近隣への配慮も徹底して行っています。



建設中の新社屋(2017年竣工予定)

クールビズの推奨

冷房の設定温度を28℃にして夏を快適に過ごす「クールビズ」に取り組んでいます。涼しい服装にだけでなく、ライブやイベントで余ったグッズのうちを再活用する取り組みを実施。社内イントラ放送や社内報を使って活用を促進し、資源の有効利用とエネルギー削減を両立しています。

ペーパーレス化の促進

googleドライブ活用促進の社内研修を実施し、パソコンでの文書閲覧・共有・保管を徹底することで、ペーパーレス化を推進しています。

再生紙の使用拡大

コピー用紙は再生紙を積極的に採用。また、社員の名刺にも再生紙を使うなど、使用率を高めています。

ゴミ・資源分別の徹底

環境への意識向上と資源リサイクル率を高めるため、紙やペットボトル、缶やピンの分別を徹底しています。

その他の環境活動

CDパッケージでの環境活動

「commons for GREEN」の合言葉のもと、名実ともにグリーンレーベルとして歩みはじめたcommons^{※1}では、2008年より同レーベルでリリースしたすべてのパッケージ商品をカーボンオフセット^{※2}CDとしてリリースしています。なお、commonsオフィス内の照明はすべてグリーン電力を使用し、環境への配慮を行っています。

※1 坂本龍一をはじめとするアーティストたちが、音楽の新たな可能性を模索すべく、当社グループとともに設立した新プロジェクト。エコロジカルな視点を持ち、社会・文化貢献を目指す新しい音楽コミュニティとして、アーティスト/クリエイター、音楽産業、ユーザー/リスナーのよりよい関係を作るための「共有地(common)」となることを目的に活動

※2 日常生活において排出したCO₂をオフセット(相殺)するために、森づくりや自然エネルギーを導入すること

イベントでのエコ活動

当社グループが毎年夏に開催している野外ライブイベント「a-nation」では、エコステーション活動を実施しています。これはコミュニティエリア内に設置されたエコステーションでゴミの回収・分別を行い、多くのゴミを持ってきていただいた来場者にボンフィン(ミサガ)をお渡しするというものです。国立代々木競技場園地で行われた「a-nation island」

では4カ所、「a-nation stadium fes.」を開催した味の素スタジアムでは6カ所のエコステーションを設置。回収されたゴミは、可燃・不燃・ペットボトルとそのキャップ・ビン・カンに分別し、ペットボトルは帝人のリサイクル循環システムを活用し、次年度のエコボランティアユニフォームやボンフィンとして再生させています。

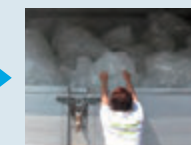
リサイクルの流れ



エコステーションにてお客さまからゴミを回収



スタッフが、ゴミをお持ちいただいた方にボンフィンを配布



回収したゴミは分別され、ペットボトルは帝人工場へ



次年度のボンフィン・エコボランティアユニフォームに生まれかわる

ULTRA SWEEPERSの活動

毎年9月にお台場で開催される日本最大級のダンスミュージックフェスティバル「ULTRA JAPAN」。その会場内をクリーンに保つためにULTRA SWEEPERSを導入。迷彩柄の服を纏うエンターテイナーがパフォーマンスをしながらパトロールし、「楽しみながらクリーンなフェスを目指す」ということを啓蒙しました。



ULTRA SWEEPERS

社会への取り組み

クラシックを通して人と人をつなぐ

クラシック音楽関連事業を世界規模で展開しているエイベックス・クラシックス・インターナショナルでは、社会への取り組みの一環として、レセプションや国際親善の場などで演奏を披露しています。2016年10月には、シドニーの



東京の米国大使館におけるレセプション

日本人学校を訪問し、1時間の授業のなかで、辻井伸行氏によるピアノ演奏のほか、生徒との質疑応答を行いました。これからもクラシックを通して、平等な社会や国際友好の実現に向け、社会貢献活動を推進していきます。



日豪友好基本条約締結40周年記念式典

学校給食プログラムへの支援

「子どもを空腹のまま、学校に通わせてはならない」とのWFP(World Food Programme)の趣旨に賛同し、継続的に支援しています。具体的には、本社に設置してある自動

販売機で飲料を購入することで、1本につき10円がWFPに寄付されます。この取り組みは2010年より継続しており、2017年3月末時点で総額は10,659,560円となりました。

アジア国際子ども映画祭

青少年の教育、国際交流などの事業趣旨に賛同し、これまで6年間に渡り、アーティストの出演協力や協賛、委員会への参加を行いました。

アジア国際子ども映画祭とは・

「子どもたちの心に内視鏡を入れよう」をコンセプトに、子どもたちが自ら制作した3分間の映像作品をコンテストする映画祭です。作品から見える子どもたちの想いを教育に活かすことも目的のひとつで、海外約15か国・地域の子どもが来日し、交流も行います。



次世代育成への取り組み

1 中学生の職場訪問受け入れ

当社グループでは、「職業としてのエンタテインメント」の魅力伝えるべく、中学生の職場訪問を積極的に受け入れています。当社グループの歴史、仕事内容など、ビデオや

資料を交えた講義のほか、スタジオを見学しています。2016年度は44校373名が全国から訪れました。

2 高校生ダンス部の全国大会を無料開催

2012年度より中学校でダンスが必修化にともない、次世代を担う子どもたちがダンスの楽しさを感じられるよう、全国の高等学校のダンス部を対象とした選手権「DANCE CLUB CHAMPIONSHIP」を開催。エントリー費・来場費ともに無料のコンテストで、ダンススキルを競い合うだけ

でなく、参加校ごとに決めた「漢字二文字」を表わすための、プログラム構成や表現力も審査の大きなポイントとなりました。8月には、予選の映像審査を勝ち抜いた36校が全国から集まり、a-nation islandのステージで決勝大会を開催。ダンスへの想いをぶつけました。

3 デビュー前のアーティスト育成について

アーティスト・タレント予備軍を活動支援契約者としてデビューまで無料でレッスンやライブ、音楽制作支援などエンタメ活動全般をバックアップしています。これを未来のエンタメ業界における優秀人材への投資とも考えて継続的に実施。現在は全世界に200名強が在籍し、2016年度には40名以上がデビューまたは専属契約を予定。年2回、全国を育成担当者が回り、活動支援契約者・親御さんとスキルチェックや、面談(スキルアップ進捗の共有や、食生活やメンタル面の指導、未成年者には進路相談など)も行っています。活動支援契約者の人生の一部を背負っているという想いを強く持ち、アーティスト、ご家族、育成担当者、3者の信頼関係こそが最適な育成環境を構築すると考え「文芸両道」を目指しています。

4 アーティストの前に人間としての教育

「人としての成長なくして人に感動を与えるエンタテイナーになることはできない」という考えでレッスンよりも「教育」という観点を重視。礼儀やあいさつ、感謝する気持ちなどの心得を教え、レッスンの場だけでなく日常生活においても成長がみられたと多くの親御さんにも言ってもらっています。

アーティストの発掘からデビューまで

オーディション、スカウト、アカデミー生などから人材を選定

アーティスト活動支援契約を締結

育成期間 平均2〜3年

社内外の新人デビュープロジェクト担当者へプレゼンテーション

専属マネジメント契約、または専属実演家契約が決定

デビュー

活動契約支援者心得

- 礼儀とあいさつを大切にすること
- 時間と約束を厳守すること
- 感謝の気持ちを持つこと
- レッスンに対する真面目な姿勢を持つこと
- 相談すること

お客様と著作権への取り組み

お客様の声を蓄積する仕組み

お客様対応の基本は、「エイベックスは問い合わせをすれば必ず返ってくる」と感じていただくことです。そのため、まず“ワンアクションを素早く行う”ことをモットーにお客様に対応しています。当社グループには月に電話で約7千件、メールで約2万件ものたくさんの声が寄せられます。これらのさまざまなご意見やご要望は、社内システムに毎朝アップロードし、全社員が閲覧できるようにし、共有することで、同種の施策に対して同様の問題が起きることを未然に防いでいます。また、運営を担うアーティストのファンクラブごとに個別電話回線を

設けています。これは「問い合わせをしたいが、なかなか電話が繋がらない」というお客様のご不満をできるだけ減らすことを目的としており、専用回線だけで30回線以上を設置しています。

お客様から寄せられる声に対する当社の対応



「他人のものを盗むな」を基本に

当社グループでは、コンプライアンスポリシー「自社の知的財産権を保護し、他者の知的財産権を尊重する」にのっとり、各種著作権への対応を行っています。映像・音楽商品の海賊版については、刑事・民事の両面から対応し、インターネットへの違法アップロードに対しては、法務部門

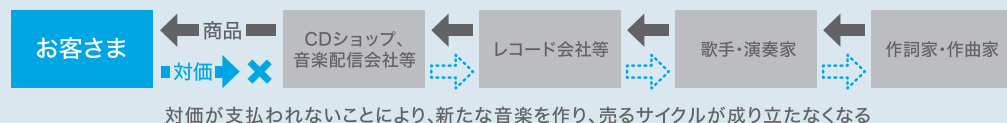
が日々ネット上でチェックを行うとともに、社員や善良なファンの方からの報告を受けて、プロバイダに削除を依頼しています。それでも違法状態が続くようであれば、個人情報の開示請求を経て、訴訟に踏み切るケースもあります。

著作権への啓蒙活動

「音楽創造のサイクルを絶やさない」という、日本レコード協会を中心とした音楽業界全体に共通した考え方をもち、当社グループの著作権侵害対応だけではなく、他者の権利を侵害していないかについても、でき得る限りチェックしています。商品が適正に販売できない状況で

すと、作詞・作曲家、アーティスト、レコード会社など、音楽に関わる人々に正当な対価が支払われなくなり、新しい音楽を生み出すことが難しくなってしまいます。そのため著作権啓蒙ポスターの配布や、職場を訪問する学生に著作権の重要性を伝えています。

著作権侵害行為で、新しい音楽の創造が不可能に (参考: 一般社団法人日本レコード協会)



働きやすい職場づくり

ワークライフバランスの推進

当社グループでは、働く女性が仕事と育児を両立しながら自己実現できる場を提供すべく、積極的な女性支援策を講じています。2013年度には、厚生労働大臣認可の次世代認定マーク「くるみん*」マークも取得しました。



「くるみん」マーク

※「くるみん」マークは子育てをサポートしている企業であることを示すものです

ワークライフバランス推進状況

2016年度の産休取得者は15名、短時間勤務を選択中の女性社員は69名となり、女性社員の約12%が育児支援制度を利用しています。近年待機児童が社会的な問題となる中、当社グループでは「より働きやすい環境」づくりを目的に、社員だけでなく、地域の方も利用できる保育園「ポポラー」を誘致しています。今後も仕事と育児の両立を支援してまいります。

社員の健康促進

社員の健康促進を目的に、通常健康診断に加え、社内さまざまな健康増進施策を行っています。2016年度については、血液内の赤血球の流れから食生活について見直す「血液サラサラ検査」、体内の筋肉や脂肪などの組織構成を調べ生活習慣病や体調の乱れを知る「体組成測定」、歯の健康状態や歯石の除去を行う「歯科健診」の3種類を実施しました。これらの健診には、多くの社員が自主的に参加し、健康についての理解を深めていました。

2016年度のおもな健康施策参加状況

健診	回数	参加人数
歯科健診	4	192
体組成測定	4	128
血液サラサラ検査	4	117



歯科健診の様子

健康保険組合の設置

当社グループは2012年6月1日に、音楽、映像コンテンツなどを提供するエンタテインメント業界としては初めて、厚生労働大臣の認可を受け「エイベックス・グループ健康保険組合」を設立しました。これにより保険料や健康診断

実施項目についても法的内容をさらに充実させた形で実施することができ、若い社員が多い当社グループの実態に合った健康維持・増進の取り組みが可能となっています。(2016年度健康診断受診率:96%)

エイベックス・グループ家族感謝会を実施

2017年2月に今回で25回目となる「家族感謝会」を実施。このイベントは、日ごろから当社グループを支えている社員のご家族に感謝の意を込めて創業当初から行っております。会社の規模拡大と共に内容を変化させ今回は役職

者とそのご家族を対象に実施。当日は、役員からの挨拶、おさま向けのステージ、お食事をしながらの歓談など、大人から子どもまで楽しめる内容で日ごろの業務とはまた違った社員同士の交流も見られる一日となりました。

エイベックスが守るべきルールとして

エイベックスでは、以下のコンプライアンスポリシーを、すべての行動・判断の基準に据え、事業活動を行っています。また、コンプライアンスポリシーを正しく理解できるよう、年に一度全社員を対象に確認テストを実施しています。

インチキするな。

1. 公正、透明、自由な企業間競争を行う。
2. 会社の正当な利益に反して、自己や第三者の利益を図るような行為を行わない。
3. 営業活動において、不正な手段は用いない。

人の金で遊ぶな。

取引先等と健全な商慣習や社会的常識を逸脱した交際をしない。

勘違いするな。

法令を遵守し、社会規範を尊重する。

他人(ひと)のものを盗むな。

自社の知的財産権を保護し、他者の知的財産権を尊重する。

抜け駆けするな。

1. 仲間を支えられている自分、仲間を支えている自分を意識する。
2. インサイダー取引をしてはならない。

チームとしての誇りを。

1. 従業員が働きやすい職場環境を実現する。
2. 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行う。

※コンプライアンスポリシー全文、コーポレート・ガバナンスはWEBをご覧ください。

弱いものイジメするな。

1. 人権を尊重し、差別につながる行為を行わない。
2. 取引先に対しては、良識と誠実さをもって接し、公平かつ公正に扱う。

ウソつくな。

1. 情報を的確に開示する。
2. 適正な宣伝・広告をする。

無駄づかいするな。

環境問題の重要性を認識し、会社の資産は有効に活用する。

「力」に頼るな。

1. 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体との関係を持たない。
2. 政治、行政と透明度が高い関係を構築する。

仲間を裏切るな。

1. 信用・信頼・名誉を損なう行動や発言をしない。
2. 企業秘密・個人情報とは適切に管理し、無断で会社外に開示・漏洩しない

そして、才能に愛と賞賛を。
(決して嫉妬ではなく)